

令和2年度 ビジョンセミナー ～「ニューノーマルに向けた公園活用とまちづくり」～

Webセミナー参加報告

■日時 令和2年9月10日(木) 16:00~18:00

■主催 一般社団法人ランドスケープコンサルタント協会(CLA)

■共催 一般社団法人公園からの健康づくりネット

■趣旨

新型コロナウイルスの影響による「新しい生活様式」、「ニューノーマル」への転換に踏み出した社会状況の中で、みどりのあり方や公園の活用について解説したWeb会議形式のセミナーが開催された。

「ニューノーマルに向けた公園活用の新たな視点」

講師:独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 主幹、新公園戦略ワーキング 三島 恵二郎氏

「ニューノーマルに応えるまちづくり」

講師:株式会社公園マネジメント研究所 代表取締役 小野 隆氏

※ニューノーマルとは…社会的に大きな危機により、かつて常識ではなかった事柄が当然となり、社会の変化を加速させる新たな常識。

ニューノーマルに向けた公園活用の新たな視点 三島 恵二郎氏

■概要

都市再生機構では、「みどり」と「まちづくり」を融合させ、まちの課題解決や都市空間の魅力向上を実現するために「みどりまちづくり」の取り組みを行っている。このみどりまちづくり推進の動きを受けて、新公園戦略ワーキングでは、これまで、多様かつ柔軟な活用が期待されていた公園が、ニューノーマルのもとで、どのような視点・役割が求められるか、その実装に向けた課題を含めて検証がなされた。

検証の手順としては、全国的な外出自粛や、海外での都市封鎖の際に公園やパブリックスペースがどのように使われたか、どのようなことが起ったかを情報収集し、収集した情報を国土交通省が推奨する「都市公園のストック効果」の9つの項目(①防災性向上効果、②環境維持・改善効果、③健康・レクリエーション空間提供効果、④景観形成効果、⑤文化伝承効果、⑥子育て・教育効果、⑦コミュニティ形成効果、⑧観光振興効果、⑨経済活性化効果)にふるい分けを行った。ふるい分けた項目ごとに公園の利用状況の変化、例えば遊具の利用停止や集客イベントを中止せざるを得なくなったこと、公衆衛生への関心が高まっていることなどの実例をもとに強化・追加すべき役割や機能があるかひとつひとつ検討された。その結果、新しい生活様式・変化する価値観に対応した公園の実装に向けて必要なことは、公園の大胆な見直しであり、また別の施設との連携、つながりや経済活動もできる場所にすることや、新しい衛生感覚に対応した公園づくりを考えいくことも重要である。

ニューノーマルに応えるまちづくり 小野 隆氏

■概要

新型コロナウイルスが世界的に流行し、各国で感染拡大を防ぐために都市封鎖や外出規制措置がとられた。私たちの身近な環境においてもテレワークが取り入れられるなど、働き方の変化によってこれまで公園を利用していないかった人たちも公園を利用するようになるという変化が見られた。

感染者が爆発的に増加したニューヨークにあるハイラインでは、構造的に安全距離が保てないから、2020年3月~7月の4ヶ月間閉鎖された。マンハッタンの観光客や富裕層の多いエリアの公園からは人々の姿が消えたが、クイーンズ、ブルックリンといった比較的経済的に恵まれない人の多い地域の公園は利用され続けた。ニューヨーク市は市民生活を守るために公園利用できるよう維持し続けた。

コミュニティ・モビリティレポート及び各都市の感染者数・死者数の2020年2月下旬~7月下旬までをまとめたグラフで人の動きを見ると、各国の施策により公園利用はまちまちであることがわかった。その中で、ピツバーグでは、多くの市民がストレスの軽減、運動不足解消のために公園を利用していた。同市は、市域を再生する際に所得や健康状態、コミュニティの状況を考慮して公園を整備していく経緯があることから、市民は公園の存在意義をよく理解していた。公園があるだけではなく、市民が公園の存在意義や使い方を知ることも重要である。

今後の日常空間、都市災害対応空間としての公園は、横断的な運用を可能とするシステムの構築や都市の資産を次世代に引き継げる制度を取り入れたしなやかで復元力のある環境デザインであるべきである。

※コミュニティ・モビリティレポートとは…Google社が発表しているデータ。新型コロナウイルスに対処するための政策によってどのような変化が起きたかについて、分析情報を提供することを目的とした、人々が訪れる場所をいくつかのカテゴリ(小売店・娯楽施設・食料品店・薬局・公園・公共交通機関・職場・住居など)に分類し、人々の地理的な移動状況を時間の経過とともに図示したもの。

編集・構成 坂田 奈美子

一般社団法人 ランドスケープコンサルタント協会 関西支部 私たちは、自然や緑と一体となった環境づくりに携わる職能団体です。

| 正会員 | (50音順) 25社 | 連絡先電話番号 |
|------------------------|---------------|--------------------------------------|
| 株 荒木 造園 設 計 | (072)761-8874 | 株 本 智子 環境 デザイン 研究 所 (0799)72-0216 |
| 株 荒谷 建設 コンサルタント | (082)292-5481 | 株 都 市 景 観 設 計 (06)6228-3388 |
| 株 エス・イー・エヌ 環境 計画 室 | (06)6373-4117 | 株 中 根 庭 園 研究 所 (075)465-2373 |
| 株 オオバ 大阪 支 店 | (06)6228-1354 | 株 ニ ュ ー ジ ェ ッ ク (06)6374-4032 |
| 株 境 設 計 | (06)6261-2144 | 株 復 建 調 査 設 計 (082)506-1853 |
| 株 環境 緑地 設 計 研究 所 | (078)392-1701 | 株 ハシフィックコンサルタント㈱ 大阪 本社 (06)4799-7311 |
| 株 環 研 究 所 | (06)6306-2481 | 株 ヘ ツ ズ (06)6373-9369 |
| キ タ イ 設 計 | (0748)46-2336 | 株 LAT 環境 クリエイト (082)273-2605 |
| 株 空 間 創 研 | (075)353-6337 | 株 リアライズ 造園 設計 事務 所 (06)6941-1151 |
| 株 現 代 ラ ン ド ス ケ ー ブ | (06)6203-1270 | 株 緑 景 (06)6763-7167 |
| 株 公 園 マ ネ ジ メ ン ト 研究 所 | (06)6947-6522 | 株 賛 助 会 員 (50音順) 1社 |
| 株 ス ベ ー ス ビ ジ ョ ン 研究 所 | (06)6942-6569 | 株 花 豊 造 園 (075)341-2246 |
| 株 総 合 計 画 機 構 | (06)6942-1877 | 株 地 球 号 (06)6945-7566 |

協力会社 (28社) 下記の各社より、支部活動にご協力を頂いています。

| 公園施設 | 12社 | 連絡先電話番号 | 舗装資材 | 4社 |
|------------------|---------------|------------------------------------|------|----|
| 株 アボック 社 | (06)6942-8466 | 株 佐藤 渡辺 近畿 支 店 (072)920-6556 | | |
| 上屋 敷工業 | (0776)56-2310 | 太 平 洋 ブレコン 工業 大阪 支 店 (06)6344-6212 | | |
| 株 コトブキ | (06)4801-8265 | 太陽エコプロックス (06)6466-6751 | | |
| 株 ザイエンス | (072)439-4413 | 日本興業 株 関 西 支 店 (06)7173-2790 | | |
| 株 サイ | (092)925-9858 | | 緑化資材 | 3社 |
| 株 カエ 西 日 本 支 店 | (06)6325-2288 | グローベン 株 関 西 営 業 所 (079)878-6070 | | |
| タカオ 株 大阪 営 業 所 | (06)6397-5266 | 東邦レオナルド (06)6767-1110 | | |
| 株 タンデム | (072)986-1880 | 株 虎ノ門 コーポレーション (0725)32-0834 | | |
| 株 中村 製作 所 | (047)330-1111 | 日本トップ工業 (06)6769-6212 | 石材 | 1社 |
| 株 ラスコジヤパン | (0794)86-0081 | 中村石材工業 (06)6571-1206 | | |
| H.O.C(エッチ・オー・シー) | (06)6395-2247 | | 施工 | 1社 |
| | | 株 橋 祥 建 設 (0794)89-8288 | | |
| 水景施設 | 4社 | | 照 明 | 1社 |
| 株 アクア ブラ ン | (06)6969-5831 | 大 光 電 機 (06)6222-6260 | | |
| 株 ウオーン | (072)870-4764 | 印 刷 | 1社 | |
| 株 宇都宮 製作 所 | (06)6494-8997 | 株 ダイビス (06)6312-6451 | | |
| 日之出 水道 機器 | (06)6446-2687 | | | |

事務局 〒530-0014
大阪市北区鶴野町4-11-1106
TEL:06-6373-4117 FAX:06-6373-4617

編集人 関西支部広報委員
委員長:庄田 隆久
副委員長:増田 将典
編集委員:福田 祥子
坂田 奈美子
友國 慎也
小野 隆

発行人 一般社団法人
ランドスケープコンサルタント協会 関西支部
関西支部長:西辻 俊明

印 刷 (株)ダイビス
発 行 一般社団法人
ランドスケープコンサルタント協会 関西支部
http://www.cla-kansai.jp



発行:ランドスケープコンサルタント協会関西支部
<http://www.cla-kansai.jp>

四木ウェブサロン（6月） ～「新型コロナウイルス禍の中の公園利用について」～

Webサロン参加報告

■日時 令和2年6月25日(木) 18:00~19:00

■主催 國際造園研究センター

■趣旨

コロナウイルス感染症拡大防止の中での公園の果たした役割の整理を端緒として、公園の質的変化とその対応について、関係者間の共通認識の確保、問題の共有化を図ることを目的に、その第1歩としてWebによるサロンが開催された。

会議概要

まず始めに、中大江公園(近隣公園)と北大江公園(街区公園)を例に、コロナ拡大時の3月の公園利用状況について報告があった。利用者が多く、ここまで公園が利用されたのは、①ストレス解消、②運動不足によるものと考えられ、利用制限がある中でも公園の利用は増えているという結果であった。

グループが発表している利用データをみると、大阪では職場や娯楽施設への外出が約40%程度控えられる中で、公園の利用は殆ど平時と変わらず利用されていた。ピツバーグでは公園施設を展開し、利用は非常に多くなれた。

WUP(都市公園とオープンスペース、レクリエーション部門を代表する国際組織)会長は、各政府の指示とガイドラインに従うこと前提に、物理的な距離をとりつつ公園緑地を利用することについて、#NatureNeverCloses(自然はいつでも待っている)との新たな声明を出した。

町田誠氏(SOWING WORKS 代表)が提言する「公園を使い倒す」考え方が重要であり、これからは、①ストレス解消や②生活習慣病対策、③地域社会を元気にする取り組みなど、公園を時間消費型の社会資本として活用していく必要があることが報告された。

所感

コロナウイルス感染症が拡大する中で、直接の感染以外にもストレスや運動不足による生活習慣病が各地で問題となっており、公園への社会からの期待が今後ますます拡大するものと考えられる。アフター・コロナの世界に向けて、公園緑地のあり方を考える時にあると感じた。

編集・構成 増田将典

「新しい生活様式」を心がけて公園をつかおう！4つのポイント ～ニュー・ノーマルに対応した公園の活用を展開します～

「新しい生活様式」を心がけて公園をつかおう！…4つのポイント

新型コロナウイルス感染症に備えた「新しい生活様式」の中では、心全体の健康を保つため、体を動かしたり、屋外でリフレッシュすることも大切です。

以下の4つのポイントに気をつけ、マナーと思いやりを大切に、身近な公園を利用しましょう。

- 1. 体調が悪いときは利用を控える
- 2. 時間・場所を選び、ゆとりあおう
- 3. 人ととのあいだをあけよう
- 4. こまめに手洗いしよう

*この資料は、「新しい生活様式」を踏まえた公園利用の基本的なポイントをまとめたものです。具体的な公園の利用については、各公園の地図の状況に応じて判断していただきたい。

都市公園は、身近な場所で散策、遊び、休息、スポーツなど健康的な生活に必要な活動を楽しめる貴重な屋外空間ですが、新型コロナの感染拡大により、一部の地域では公園全体や一部施設を閉鎖せざるを得ない状況も発生しました。

このため、感染症対策の専門家からアドバイスをいただき、新型コロナウイルスの感染状況が変化する中でも継続的に公園を利用できるよう、注意していただきたい事項を「新しい生活様式」を踏まえた身近な公園利用のポイントとしてまとめました。(資料[1]・[2])

地方公共団体と連携して、公園の魅力や多様な楽しみ方(資料[3])を合わせて情報発信することにより、多くの方に感染対策にも気をつけながら積極的に公園を利用していくだけの環境づくりを進めています。

資料:
[1] 新しい生活様式を踏まえた公園利用のポイント
[2] 【要覧】New Normal Park Lifeポスター(全国都市公園整備促進協議会)
[3] 【参考】New Normal Park Lifeポスター(全国都市公園整備促進協議会)
<https://www.pos.or.jp/sokushin/>